

# 新本牧地区歴史と景観関連調査

1987.03.

横浜市都市計画局  
山手総合計画研究所

1. 既往の計画調査と地区の将来像

- 既往の計画調査で何が提示されたか
- それぞれのスタンス、別々のまちづくり
- 本牧の地域環境のまとまりをどうとらえるか

2. 歴史性のある景観のまちづくり

- 本牧の歴史性とは何か
- フィジカル環境としての本牧の魅力は何だったか
- 本牧地区の都市形成
- 強化してゆきたい本牧環境の歴史的魅

3. 新本牧計画推進のために

- 新本牧計画推進にあたって、現在何が必要とされているか

4. 状況の正確な把握

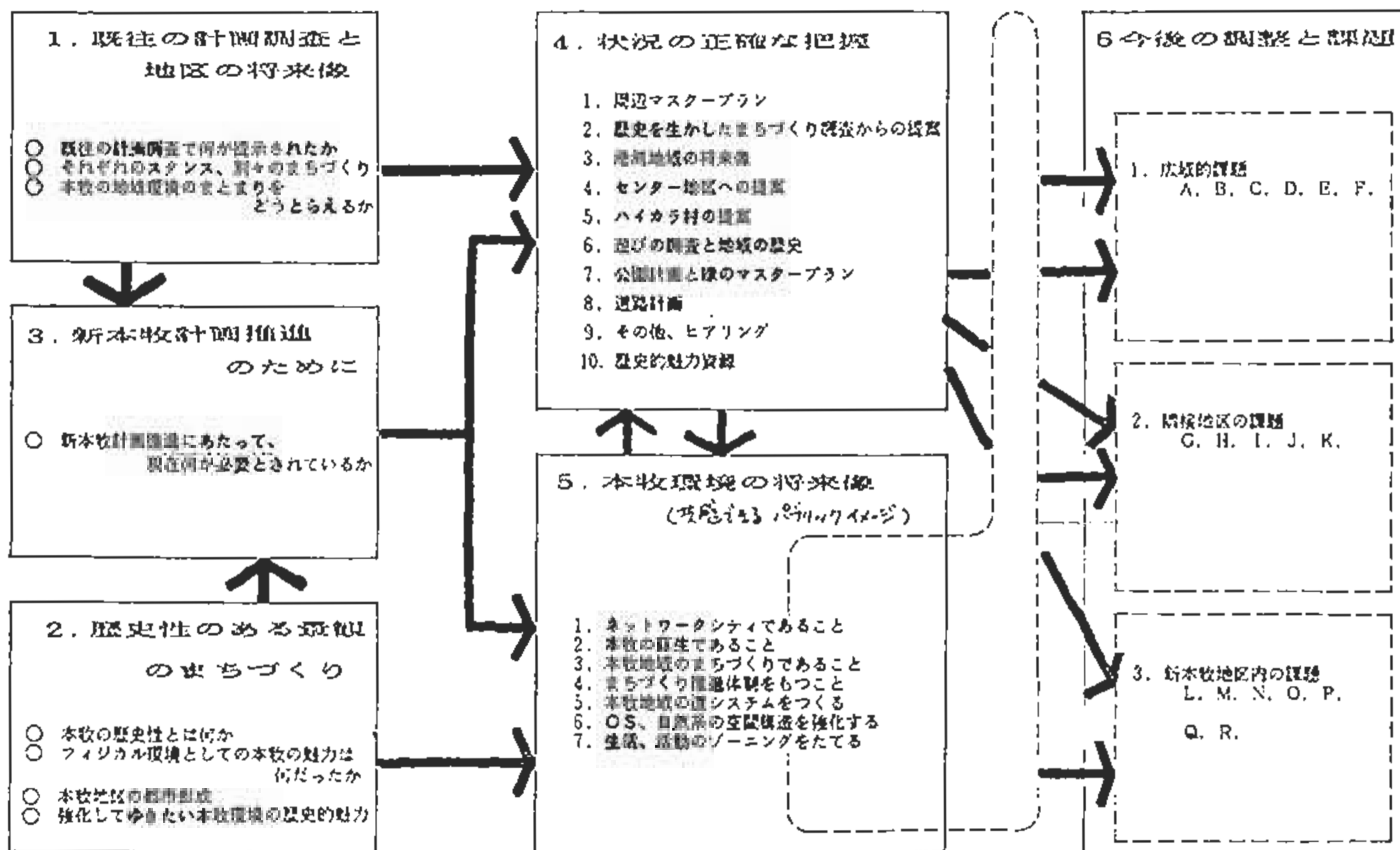
1. 周辺マスタープラン
2. 歴史を生かしたまちづくり調査からの提案
3. 港湾地域の将来像
4. センター地区への提案
5. ハイカラ村の提案
6. 遊びの調査と地域の歴史
7. 公園計画と緑のマスタープラン
8. 道路計画
9. その他、ヒアリング
10. 歴史的魅

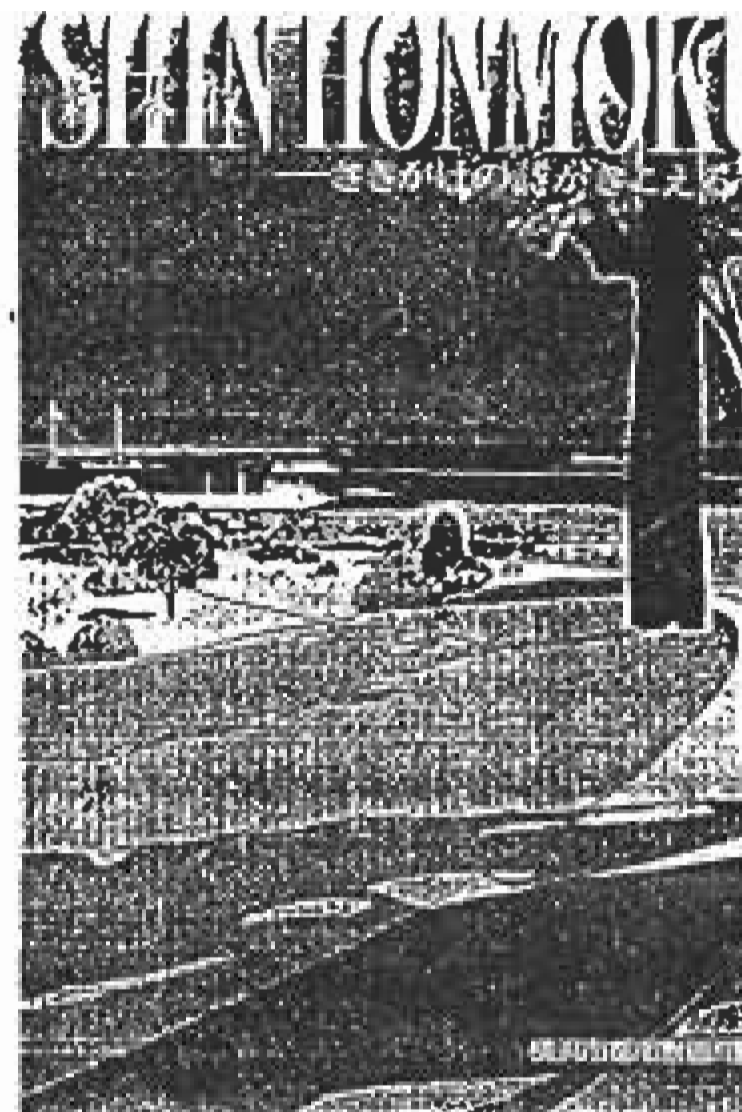
5. 本牧環境の将来像の提示

1. ネットワークシティであること
2. 本牧の蘇生であること
3. 本牧地域のまちづくりであること
4. まちづくり推進体制をもつこと
5. 本牧地域の道システムをつくる
6. OS、自然系の空間構造を強化する
7. 生活、活動のゾーニングをたてる

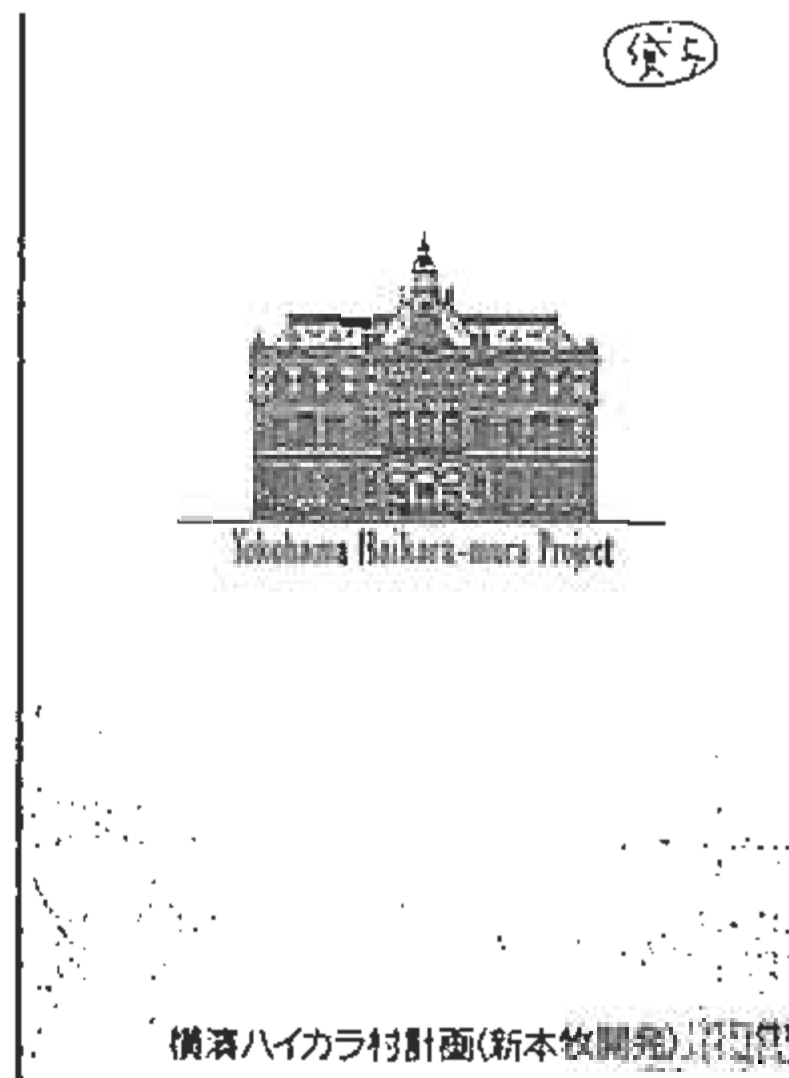
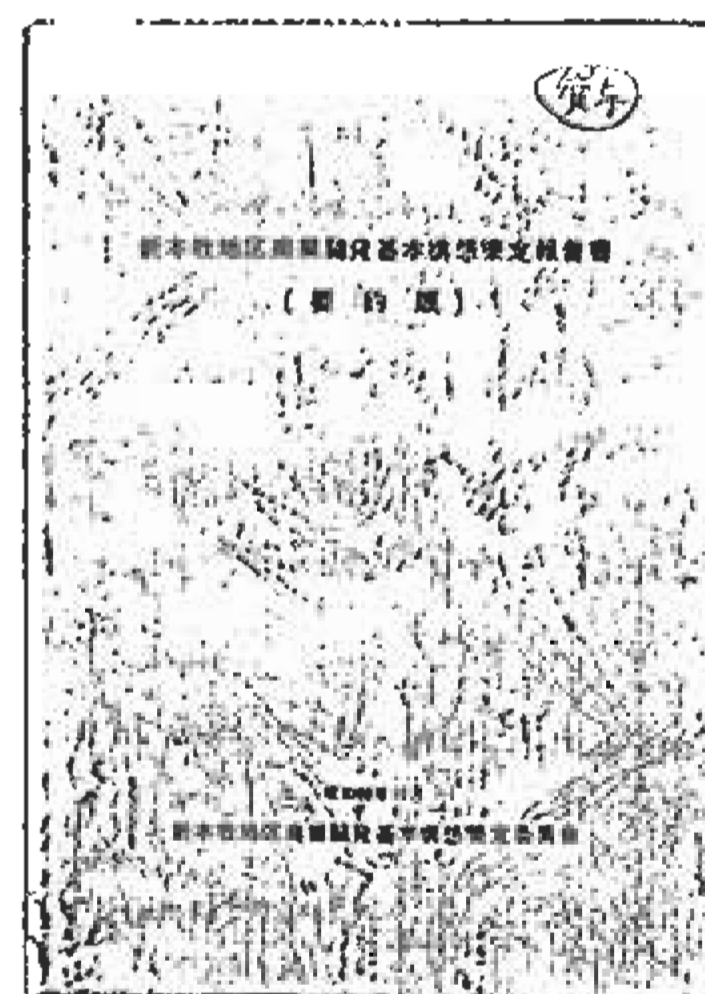
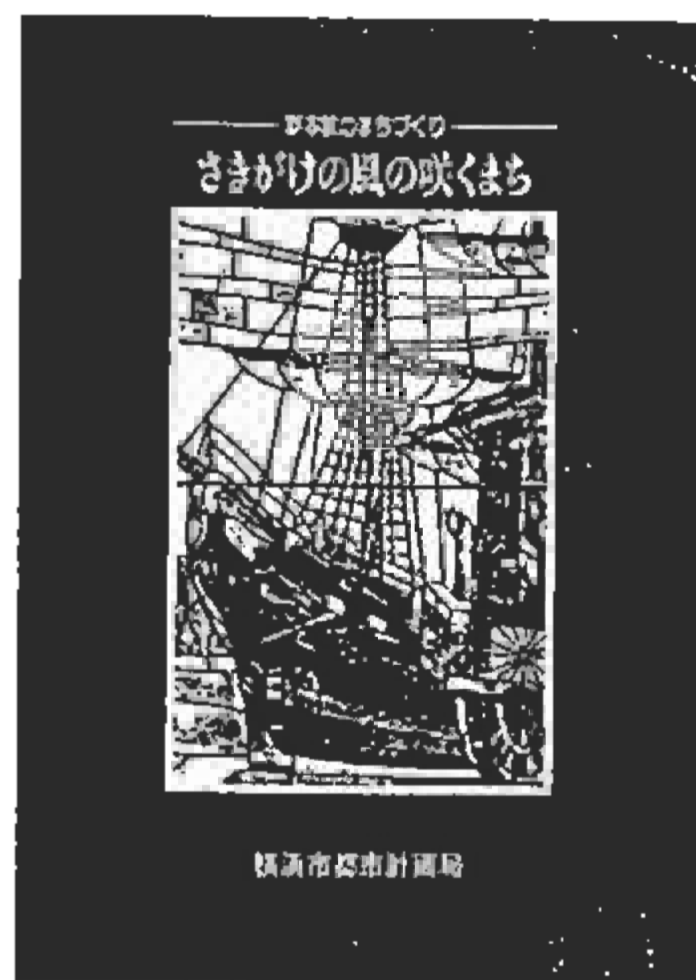
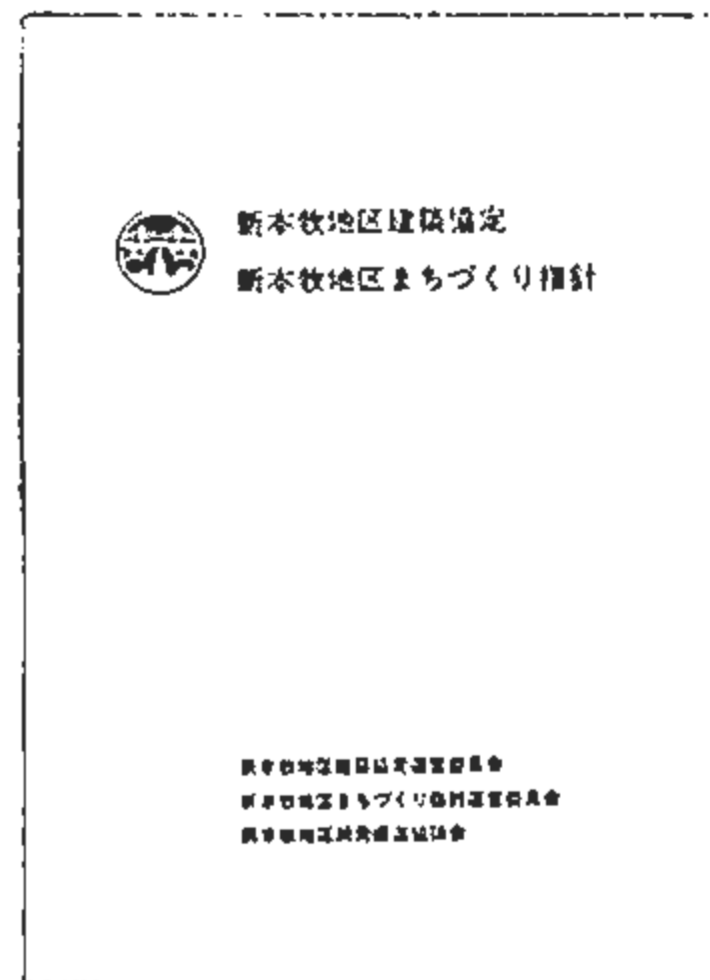
6. 今後の調整と課題

1. 広域的課題  
A. B. C. D. E. F.
2. 隣接地区の課題  
G. H. I. J. K.
3. 新本牧地区内の課題  
L. M. N. O. P. Q. R.





- 既往の計画調査の巻には、他地区プロジェクトと比べ、多いと言えるだろう。
- 区画整理事業(基盤)の概要建築コントロールの内容について多くのPRがなされている。
- 他方、民間の側でも、街に個性を与える計画の提案やセンター地区のデザイン、CI計画がなされている。



● 仁王寺跡の一言と「まちづくり」(定義)を「ソフト手帳」に埋めると、地域の歴史や遊びを通じて「まちづくり」が自然に行われる。



● 既往の計画調査で何が提示されたか。

「生名像も含めたトータル環境イメージ」を目標とし「まちづくり」を市民や関係者、フロンターがとらえようとした時、どの様なレベルの計画が必要になるだろうか。皆が目標にイメージできる様なわかり易い地域像を、マスタープラン、コンセプトとして、地域にアピールする為には、また、今後事業が「まちづくり」に進化していく為には、既往の計画や地誌等は十分であったのだろうか。という2つの疑問が「まちづくり」調査のスタートにあった。「歴史」や「遊び」、「景観」、「まちづくり」という言葉に組み、何が不足しているかを埋めようとするフロンターの心理(直観)が「あはれ」ではないか。

区画整理事業に於て、造成、交通、供給処理、公共施設、住戸配分等々を不手配した土地利用計画や、街並みの調和を目標とする建築協定等の都市計画技術は20年間に培われてきたが、最低限度の北を定めるといった基盤(部分的)な都市計画の従来の特色を保持している。しかし、「まちづくり」の言葉に含まれる民間の環境行為(活動、建築)や公共整備の蓄積といった本来の計画の多様な主体による「継続的計画行為」が、目標を見失わない様な、「地域計画」(市民的でコミュニケーションの道具にもなる地域将来像)も必要である。いや、本来は二の中に部分としての地区区画整理も位置づけられるべきであった。既往の計画の中に将来の大きな方向性は示されているだろうか。

多くの報告書があるにもかかわらず、権利者が「街のイメージがつかぬ」と言うのは、地区内の道路パターンの協定に、即ち計画区域内にとらわれすぎているからだろう。そして計画側の準備範囲も、この部分を全2である為には、他ではコミュニケーションが成立しない。ハイクラスやYMCAの提案は、内容の是非は置いといても、トータル性を示す計画に対するカーンティン(地権者の計画に対する欲求不満)は示されていないだろうか。今後の公共性の個別計画についても、マスタープランエンターションが無いと、担当者次第の判断と示らなければならない。

